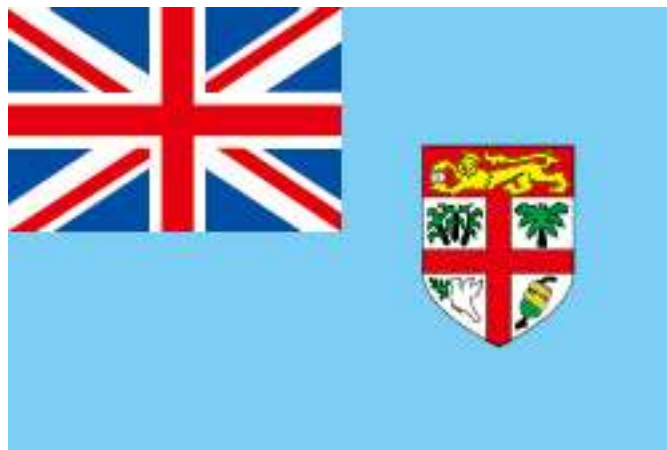


# JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

## フィジー国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

## 目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
  - (1) アナカン・郵送等の利用について
  - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
  - (1) パソコンの普及状況
  - (2) 固定電話・携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
  - (1) 現金持込にかかる注意
  - (2) 両替状況
  - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
  - (1) 国内医療機関について
  - (2) 歯科治療について
  - (3) 感染症について
  - (4) 医薬品、医療機器について
  - (5) 予防接種について
8. 蚊帳について
9. 任国での運転について
10. お問い合わせ
11. その他
  - (1) 赴任後の日程（赴任当日、現地研修（訓練）について）
  - (2) 現地生活情報（住居、食料・水、衣料、電気製品・電圧、洪水等）
  - (3) インターネット情報

## 1. 赴任時の携行荷物について

赴任時に必ず持参するもの

- ・ 隊員ハンドブック
- ・ Health & Medical Record (訓練所で配布する緑色の冊子)
  - \* 訓練所で接種したワクチン以外の接種記録があればそれも持参してください
- ・ 国際協力共済会会員ハンドブック
  - 上記は現地オリエンテーション研修(訓練)で使用します。
- ・ 派遣に関する合意書

### 【注意事項】

赴任後 2～3 週間の間に必要な日用品(常備薬など含む)は手荷物として持参してください。

赴任後、関係機関への表敬訪問を実施しますので、公式の場に適した服装を持参いただくか、もしくは現地到着後すぐにフィジーの民族衣装(男性はブラシャツ、女性はスルチャンバ)の購入をお勧めします。現地研修(訓練)中についても、節度をわきまえた服装を着用願います。なお、表敬訪問等では JICA 支給のピンバッジを着用しますので、ご持参ください。

入国時の通関では X 線検査があり、場合によっては荷物を開封されますので、食品を所持している場合には必ず申告してください。当国では家畜・植物防疫の観点から、肉類・卵を含む食料品の持込は禁止されていますのでご注意ください。加工品を持ち込む場合でも肉類や卵が含まれるなどの印象を持たせないよう、あらかじめ工夫してください。なお、当該食料品は税金を支払っても持ち込むことはできず、没収されても異議を唱えることはできません。

参照 URL

<http://www.baf.com.fj/cooperations/animals-and-animal-products>

<http://www.baf.com.fj/services>

## 2. 別送荷物について

### (1) アナカン・郵送等の利用について

荷物の送付方法には、小包郵便(航空便、船便)、EMS(国際スピード郵便)、アナカン(航空別送荷物)、国際宅急便(DHL・FedEX 等)、海上輸送があります。国際郵便(EMS、小包郵便)の所要日数は EMS が約 1 週間、船便は早ければ 1 ヶ月で遅い場合は 2 ヶ月以上かかる場合もあります。小包郵便、EMS の重量制限は日本国内の郵便局でご確認ください。なお、フィジー国内での受取りには手数料がかかります。宛先は JICA フィジー事務所の ポスタルアドレス にして下さい。また内容物およびそれに係る保険内容によっては高い関税がかかることがあります。

参照 URL <http://www.post.japanpost.jp/cgi-kokusai/country.php?cid=67>

※郵便物を送付する場合の宛先(ポスタルアドレス・私書箱)

Mr. or Ms. 自分の名前 (隊次) c/o JICA Fiji Office JICA Private Mail Bag, Suva, FIJI
--

- ・ アナカン(航空別送荷物)
  - 通関業者を通し安全で確実に荷物を送ることができますが、輸送料に加え通関手数料等がかかるため、100kg を超えるような荷物でなければあまりメリットはありません。荷物の重量

と重要度を考慮の上、アナカンを利用する場合は出発 2 週間ほど前から手続きを開始してください。速やかな引取り手続きのため、“Air Way Bill”と“Invoice”、パッキングリスト(英文)は必ず持参願います。通常、赴任後 2 週間以内(当地に荷物が届いていた場合)に荷物を受け取ることができます。受取手数料等がかかる場合もありますので、詳細は送付時に業者等にご確認ください。宛先は JICA フィジー事務所の所在地住所としてください。

- 国際宅急便(DHL・FedEX 等)

所要日数は通常 3~4 日で、安全かつ迅速に荷物を送ることができます。国際郵便に比べて費用は割高です。宛先は JICA フィジー事務所の所在地住所としてください。ただし、TAX PAYER IDENTIFICATION NUMBER (TIN)がないと受領できないので注意してください。通常 TIN 取得には、申請から 3 週間程度を必要とします。

※アナカン、国際宅急便(DHL 等)を送付する場合の宛先(所在地住所)

Mr. or Ms. 自分の名前 (隊次)  
c/o JICA Fiji Office  
Level 8, BSP Suva Central Building, Corner of Pratt Street and Renwick Road, Suva, FIJI

## (2) 通関情報について

免税措置が受けられるのは当地到着(赴任)後 6 ヶ月以内です。それ以降は内容物によって税金(関税+付加価値税)がかかります。

赴任直後の荷物受取りにおいて、内容物の申請額が高額だったため通関手数料の支払い(数万円)を必要としたケースがあります。申請額は損害保証額との兼ね合いもありますが、記入の際にはご注意ください。

## 3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況(現地で購入可能な PC の機種・価格、プロバイダ、E-mail の利用状況など)

デスクトップ、ラップトップ、周辺機器は現地で購入できますが、価格は日本より割高なことが多いです。また、日本語の OS およびソフトは購入できません。

日本からパソコンを持参する場合は、故障に備えて付属の CD-ROM など再インストールに必要なものをすべて持参してください。パソコンの故障原因は、ウイルス感染、埃、HD の損傷等です。あらかじめ、ウイルス対策ソフトをインストールしておくことをお勧めします。活動データ等をバックアップする外付けハードディスクがあると便利です(フィジーでも入手可能ですが、日本と比べて高価です)。

当国のほぼ全土でインターネットが利用でき、現在隊員が派遣されている地域はすべて利用可能です。通常隊員はプリペイド式の携帯電話会社のモバイル Wifi を購入/使用されている方が多いようです。または、現地プロバイダを利用し、ワイヤレスネットワーク(月額 F\$15~100 程度)でインターネットに接続することもできます。ほとんどの地域でインターネットカフェも利用できます。

## (2) 固定電話、携帯電話の普及状況

隊員が派遣されている地域には、固定電話および携帯電話が普及しています。業務連絡・緊急連絡等を目的として、JICA 事務所より隊員全員に携帯電話を貸与しています。

#### 4. 現金の持ち込み等について

##### (1) 現金持込にかかる注意

当国では現金の持ち込み制限でF\$ 10,000(F\$及び外貨の合計額)を超えると税関申告の必要があります。まれに空港で取り調べがあり、違反すると罰金が科せられます。また、フィジーでは、スキミング等クレジットカードに関連する犯罪が急増しており、クレジットカードはキャッシング等含め使用しないことを強く推奨しています。

##### (2) 両替状況

銀行および両替商で、日本円・米ドルの現金を現地通貨に両替できます。一般的に、銀行より両替商の方が、多少交換レートが良いようです。

※為替レート(2019年6月18日現在)

・米ドル F\$1=US\$0.4616

・日本円 F\$1=JP¥49.9936

なお、当国では外国通貨の購入には、旅行を証明するEチケット、パスポートが必要となります。現地到着後の日本円や米ドルの購入は困難ですので予めご了承ください。

##### (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

###### 【長期】

着任後3か月分相当の現地生活費が現地銀行口座開設後に支給されます。銀行口座開設まで1か月程度要するため、当面の生活費として20万円程度を持参することをお勧めします。

###### 【短期】

着任後半年分相当の現地生活費は日本で支給のため、相当金額を着任時に持参するか、もしくは現地銀行口座開設後に日本からご自身の責任で送金を実施してください。なお、銀行口座開設には1か月程度要します。任期が6か月以上の短期隊員については、着任後181日目以降の生活費についてJICA本部より現地銀行口座に送金されます。

赴任移動時には、多額の現金を持つ機会も多くなることから、すり、ひったくり、置引き等盗難被害等に遭わないよう、くれぐれも保管にはご注意ください。

現地研修(訓練)期間中、現地銀行(ANZ Bank)にフィジードル口座を開設します。現地生活費はこのフィジードル口座に振り込まれます。

#### 5. 治安状況について (JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照)

都市部を中心として治安は年々悪化しており、「フィジーは安全」というイメージは過去のものとなっています。外国人だけでなく現地の人も、すり、ひったくり、空き巣、強盗といった犯罪に巻き込まれており、近年ではレイプ等各種性犯罪被害の増加や、銀行強盗やスーパーマーケット強盗、クレジットカード関連の犯罪も発生しています。また、JICA関係者も、毎年、すり、空き巣、ひったくり被害に遭遇しています。

- ・ フィジーでは過去に4回クーデターが発生しています。直近としては、2006年12月5

日に軍事クーデター（無血）がありました。これにより前政権は解散、2007年1月9日にバイニマラマ国軍最高司令官を首相とする暫定政権が成立しました。しかし、2009年4月に同暫定政権を違憲とする控訴審判決が下り、これに対し大統領声明により憲法が廃止（Abrogate）され、大統領の任命でバイニマラマ国軍最高司令官が再度首相になるという異例の事態が発生しました。その間のフィジーは憲法が存在せず、かつ緊急事態令（Public Emergency Regulations）が発布され、報道・集会統制が敷かれている状況でした。2012年1月に緊急事態令解除、2013年9月に新憲法制定、2014年9月に総選挙が行われ民主化が進みました。2018年11月には第2回総選挙が実施され、バイニマラ首相が再任され一応の落ち着きは維持されていますが政治の不安定化要因は依然として残されている状況です。フィジーでは政治と民族（原住フィジー系とインド系）が結びつくことも多く、非常にセンシティブであるため、政治に関する話題には関わらず中立的な立場に徹した慎重な態度を取ることが必要です。

- また、上述のとおり治安状況も年々悪化しており、決して良好とは言えないため、治安・安全に対する自己防衛を常に念頭に置いた行動が必須です。

治安全般としては、スリや空き巣、ひったくりといった軽犯罪が年々増加しています。近年では車両を狙った犯罪（車上荒らし、路上駐車等での強盗等）も起こっています。日常から犯罪者のターゲットにならないように、貴重品を見せない、不必要に持ち歩かないなどの注意が必要です。

- JICA関係者の犯罪被害の多くは夕方～深夜にかけて発生しており、夕方であっても人通りの少ない場所には単独では行かず、夜間の外出は極力避け、やむなく夜間に外出する際にはグループ行動を行ってください。特に女性の場合、単独での夜間の外出は絶対に控えてください（ナンディで、地元のグループに誘われた邦人女性が殺害されるという事件が2012年に発生、2016年には旅行中の邦人女性が日曜日の朝強姦未遂にあっています）。フィジー国内では現地人男性も性犯罪事件の被害者になっています。
- 夜間の移動は近距離であってもタクシー利用が必須です。乗り降りの際にひったくり等の被害に遭わないよう、周囲の安全を確認した上で速やかに乗降し、目的地の玄関のドアの前まで車をつけてください。JICA関係者住居の敷地内でのひったくり事件も発生しており、また、バスターミナルでのスリ被害なども多いです。
- 外国人の政治活動は禁じられており、違反者に対しては滞在・居住許可が取り消されるほか、退去強制処分もありえます。
- 麻薬の所持および原料となる植物の栽培は懲役刑（最高無期刑）となり、外国人といえども例外的な扱いはありません。最近では麻薬犯罪が増加しているほか、報奨金目当てに麻薬類を観光客に売りつけた直後に密告するようなケースがあるため、一切関わらないようにしてください。
- JICA関係者には赴任時に犯罪被害の事例を紹介し、注意を呼びかけています。また、全隊員に業務連絡・緊急連絡用の携帯電話、サイレン付メガホン、携帯アラームを貸与しており、住居の安全対策強化のために、鍵の補強、防犯格子の設置等の支援を行っています。

## 6. 交通事情について

- スバ市内でのバス(路線多数)はF\$0.70(約35円)～F\$2.00(約100円)。バスの乗車にはバスカードの事前登録・入手が必要となります。
- メータータクシーも初乗りF\$1.50(約75円)から利用可能です。
- 市内、都市間など、陸路の移動はバス(民間企業数社が運行)が一般的です。スバ・ナンディ間は幹線道路のため通行車両の速度も速く(最高速度は80Km)、交通事故が多発しています。タクシーには基本的に料金メーターがついていますが、地方では乗車時に料金の交渉が必要となることもあります。鉄道はサトウキビ運搬用の貨物列車のみで、旅客列車の運行はありません。
- 離島を含め複数の国内航空路線があり。島嶼間はフェリーや小型のボートが運航しています。

交通量や事故の増加により、隊員への単車・自転車の貸与は行っていません。単車運転は禁止、自転車についても首都は禁止、地方においてもやむを得ない場合以外は所持・運転は控えてください。

## 7. 医療事情について

### (1) 国内医療機関について

首都スバには国立・私立の総合病院があり、急性期治療や重症疾患の治療が行われています。地方においては各地区に総合病院や初期治療を行う公立のヘルスセンターや私立クリニックもあります。しかし、全体的に医療の水準(医療設備、技術、診断能力や医療の質)は日本や他地域に比べると決して高いとは言えません。このような背景より、日ごろからの健康管理が大変重要で、安全と同様に「自分の身は自分で守る」よう、赴任前から意識づけるよう心がけてください。また赴任中に傷病があった場合は早めの対応(受診、相談)を心がける必要があります。

入院治療は必要な際は首都にある私立医療機関で入院可能ですが入院費は高額です。

(例：急性胃腸炎で5日間入院した場合、日本円で約30万円)

首都にはJICAと顧問医契約している私立クリニックがあり、多くのJICA関係者が利用しています。また入院設備も要しています。

### (2) 歯科治療について

首都スバにある私立クリニックは比較的日本と遜色ない治療を受けることができますが、治療費は高額です。

### (3) 感染症について

フィジーの風土病に雨期に罹患者が多くなるデング熱、洪水やサイクロン発生後に発症している腸チフス、レプトスピラ症などがあります。近年、髄膜炎流行による死亡ケースがありましたが、現在は予防接種が定着しており発症は収束してきています。その他、食中毒、下痢症、インフルエンザや風邪もよくみられます。

狂犬病はないと言われていますが、野犬や放し飼いの犬が多く、犬咬傷への対策が重要

です。

#### (4) 医薬品、医療機器について

国内で入手できる薬剤は種類も数も限られています。既往症や生活習慣病で継続して受診や投薬が必要な方は必ず英文の診断書や薬剤情報を持参してください。日本のような胃薬、整腸剤、目薬などの市販薬も販売していますが、日頃から使い慣れた薬は持参するとよいでしょう。血圧計、体重計、血糖測定器などは購入可能ですが、婦人体温計は入手不可能ですので、必要な方は本邦で購入してください。

#### (5) 予防接種について

発症がみられない狂犬病以外のワクチンは接種可能です。

必要に応じて希望者には赴任直後に腸チフスワクチン、派遣中に B 型肝炎ワクチンの接種、流行に応じてインフルエンザワクチンの接種をアレンジしています。いずれも JICA の予防接種補助上限内で接種可能です。

## 8. 蚊帳について

現地で購入可能です。デング熱等、蚊を媒介とした感染症があり、場所によっては蚊が多いので蚊帳の購入、使用をお勧めします。

蚊よけスプレーや蚊取りグッズ(電子タイプ、線香)は入手可能です。蚊よけスプレーは日本に比べて刺激が強いものもありますので、皮膚の弱い方やアレルギーをお持ちの方は日本で使いなれているものの持参をお勧めします。

## 9. 任国での運転について

単車・四輪車の使用は全面的に禁止しております。また、任国外旅行での自動車の運転も禁止となっておりますので、ご了承願います。

## 10. お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下のボランティア班共有アドレス宛にメールでお問い合わせください。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練が開始してから行ってください。

※活動に関わる内容以外の質問はお控えください。

ボランティア班共有アドレス : [jicafj-VC@jica.go.jp](mailto:jicafj-VC@jica.go.jp)

## 11. その他

### (1) 赴任後の日程

#### ➤ 赴任当日

空港で入国審査後、ロビーにて JICA のプラカードを持ったドライバーが皆さんをお待ちしています。その後 JICA 事務所が手配した借上げ車両で首都スバまで移動(約 3~4 時間、途中休憩あり)、宿泊先(隊員連絡所)に荷物を置いた後、JICA 事務所への到着となります。

※空港にて各自少額の換金を実施してください。

※スバ到着が 14 時以降となるため、昼食は各自途中休憩時に摂取してください。



※移動時に正装の必要はありませんが、節度のある服装でお願いします。

➤ 現地研修(訓練)

長期の隊員は約1ヶ月間の現地研修(訓練)を実施します。現地研修(訓練)は、安全対策、各種事務手続き・銀行口座開設等を含むオリエンテーション、関係省庁・各配属先訪問、現地語学訓練(※フィジー語・ヒンディ語)、ホームステイを実施します。関係機関訪問に備え、自己紹介と活動の抱負程度は英語で述べられるようにしておいてください。

短期の隊員は語学訓練とホームステイがありませんので、現地研修は通常1週間程度です。  
※両言語20時間ずつ程度実施。

(2)現地生活情報

➤ 住居

隊員の住居は、原則として、配属先から政府官舎または政府借り上げ家屋が提供され、同性2~3名の同居となっています。政府官舎には基本家具はなく、各自で揃える必要があります。また、政府借り上げ家屋においても必要最低限の家具は大家が準備することになっていますが、状況によっては各自で揃える場合があります。また、リネン類や調理器具、食器類は各自で揃えてください。

➤ 食料・水

一般的な食材はマーケット、スーパー、個人商店などで購入できます。日本の食材(味噌、醤油、みりん、酢、料理酒、わさび、豆腐、海苔等)はやや高価で種類や数は限られますが、スパでは入手可能です。水道水は煮沸すれば飲むことができます。

➤ 衣料

品質やデザインにこだわらなければ、現地で安価な衣料が購入できますが、フィジー人は日本人に比べ大柄なため、小柄な方は下着類、靴類を持参した方が良いでしょう。また長距離バス乗車時、配属先や事務所等では冷房が効いて寒い場合があるため、長袖の衣類や上着も必要です。

➤ 電気製品・電圧

電気製品は日本より高価で品種・機能も限定されます。電圧は240Vでコンセントの形状は「ハ」の字型(Oタイプ)です。日本のコンセント形状の「I」型から「ハ」の字型に変換するアダプターはフィジーで入手可能ですが、持参をお勧めします。

日本から100Vの電気製品を持参する場合は変圧器が必要となります。2019年現在、240V→100Vの変圧器は当国では入手困難な場合が多いため、日本から持参してください。

➤ 洪水

2009年1月、2012年には1月、3月、2016年2月、4月サイクロンによる洪水が発生し、ナウソリ、ナンディ、バ、シンガトカ、ラキラキといった町が広範囲にわたって浸水する事態となりました。それ以外にも例年サイクロンシーズンとなる11月~4月には大雨による洪水も各地で発生しています。洪水発生に備え、サイクロンシーズン(12月~3月)にかけては、

食糧（水を含む）の備蓄、携帯電話の充電、懐中電灯・ラジオの用意を心掛けておく必要があります。懐中電灯、ラジオはいずれもフィジーで入手可能です。

(3) インターネット情報 下記の生活情報等を参照ください。

- JICA フィジー事務所 <http://www.jica.go.jp/fiji/index.html>
- 外務省フィジー共和国 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/fiji/data.html>

以上